

資 料 3

令和8年(2026年)8月18日

第3回高齢者福祉専門分科会

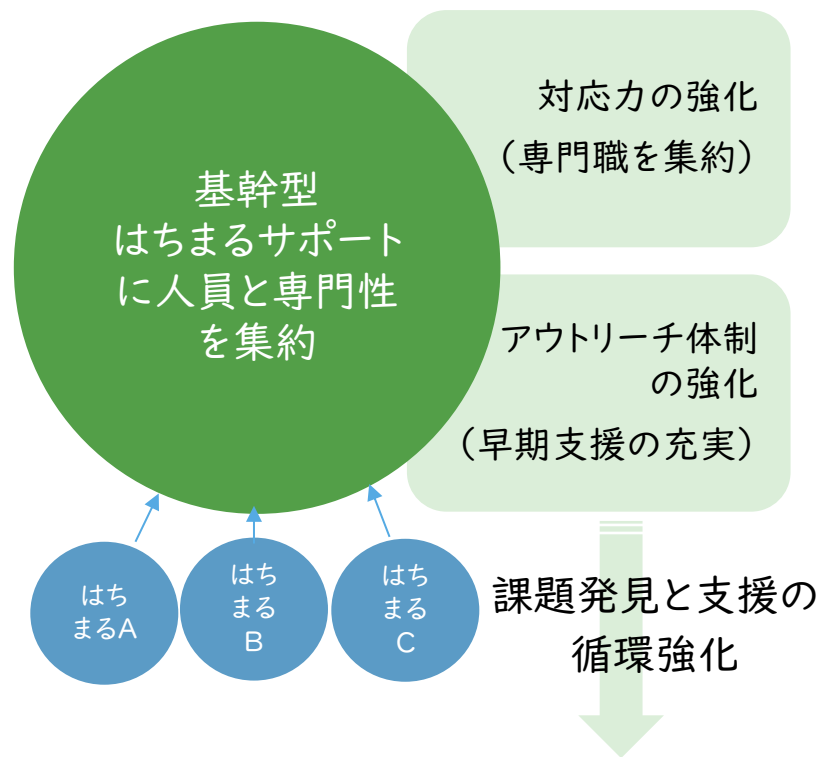
相談体制の再編



1. 事業見直しの検討状況について (No.2 相談体制の再編)

令和8年度第2回地域福祉
専門分科会（7月6日）資料

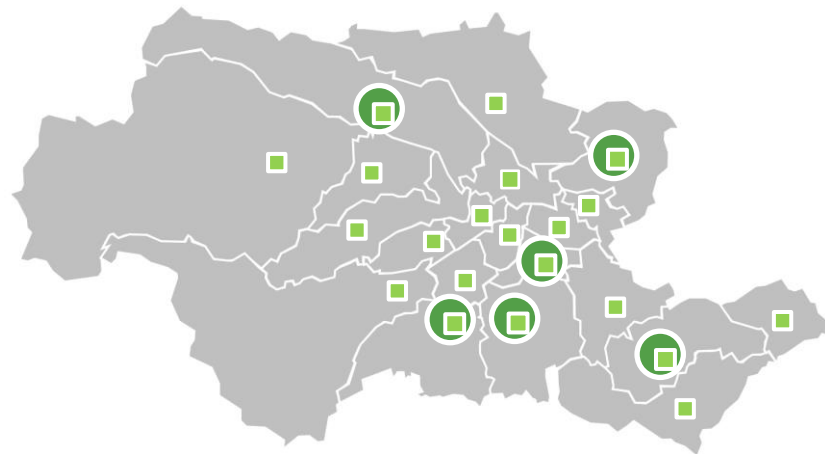
はちまるサポートを13 → 6か所に集約
専門支援の対応力向上を図るとともに、
地域へのアウトリーチを中心とした活動を充実



社会福祉協議会の強みを生かした
“つながり”づくり

既存の高齢者あんしん相談センター21か所の相談範囲を拡充することで、分野横断的な相談支援が提供できる身近な窓口を充実

分野横断的な相談：はちまるサポート 6か所に加え、
高齢者あんしん相談センター 21か所の包括化を検討
※高齢者のみの相談から属性を問わない相談に拡充



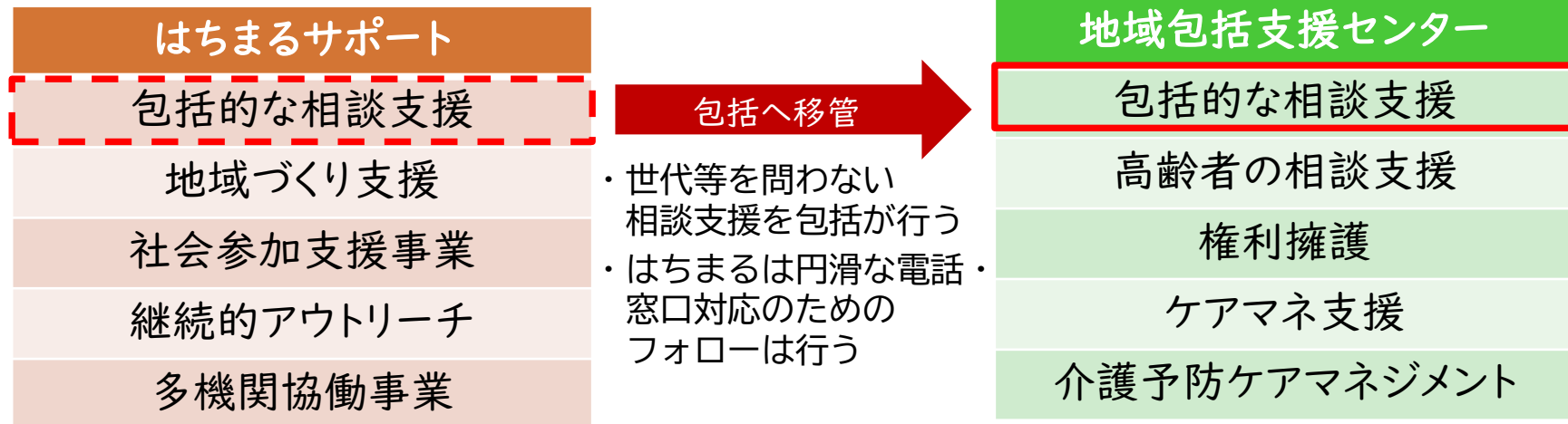
今後の設置イメージ(想定)	マーク
【拠点】はちまるサポート	
地域あんしん相談センター(仮称) ※名称変更も検討	

1. 個別事業の見直しの検討状況について (No.2 相談体制の再編)

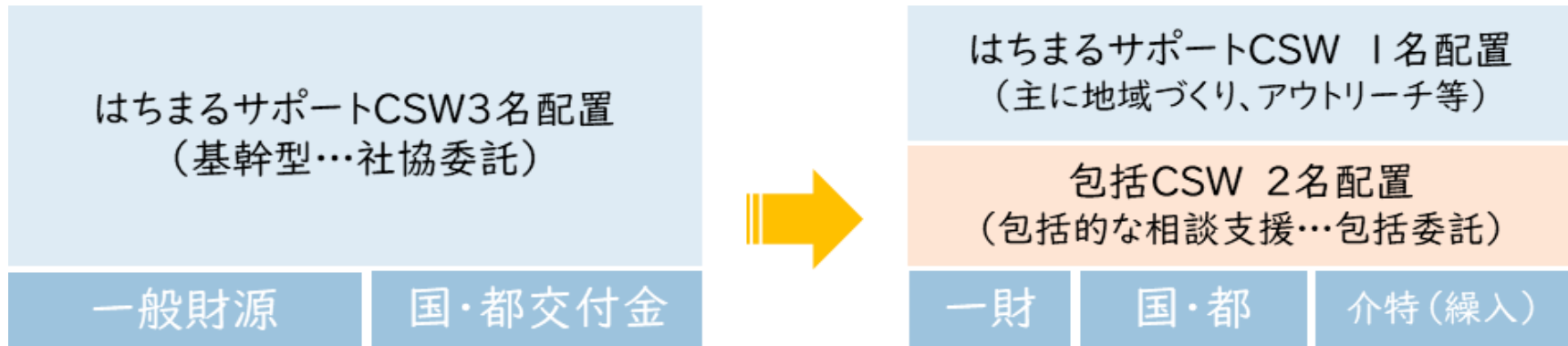
令和8年度第2回地域福祉
専門分科会（7月6日）資料

令和7年5月～ モデル実施（はちまる子安・包括子安の併設化に伴う運営体制の変更）

【業務内容】



【人員体制・財源構成】



- ・ はちまるCSW、包括子安CSWともに配置要件は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士のいずれかの資格を持つ者又はそれと同等の知識・技術、経験等を有する者。

以下は参考資料

(令和8年度第2回地域福祉専門分科会資料抜粋)

第4期地域福祉計画の中間見直しの方向性について

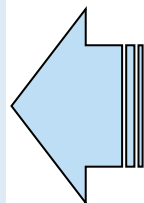
令和8年（2026年）7月6日
地域福祉専門分科会
福祉部共生社会推進課

1 複合化・複雑化した課題への対応 議論のポイント

新たな取組についての論点整理

① 複合化・複雑化した課題への対応

- ・ 8050問題
- ・ 孤独孤立対策
- ・ 精神障害にも対応し得る地域包括ケアの構築



はちまるサポートの拠点化を
進める上でもポイントとなる課題

議論のポイント

- (1) 相談窓口再編の必要性
- (2) 相談窓口再編の実現性
- (3) 今後の重層的支援体制整備事業
(八王子市は何を目指していくか?)

1 複合化・複雑化した課題への対応

(1) 相談窓口再編の必要性

令和7年度第1回地域福祉
専門分科会 資料(再掲)

(1) 多機関協働事業等に要する費用への交付割合の見直し

- 重層的支援体制整備事業の開始から5年が経過した市町村（令和8年度にあつては、令和3年度から事業を開始した42市町村）の多機関協働事業等に要する費用の交付割合は、国3分の1、都道府県3分の1とする。（※1・2）
- 重層的支援体制整備事業開始前年度の財政力指数が1を超える市町村（同事業開始年1月1日時点の人口が10万人未満の市町村を除く。）及び特別区の多機関協働事業等に要する費用の交付割合は、同事業の開始年度に関わらず、国3分の1、都道府県3分の1とする。
加えて、同事業の開始から5年が経過した際の交付割合は、国4分の1、都道府県3分の1とする。（※2）

【令和7年度以前に事業開始した市町村の交付基準額】

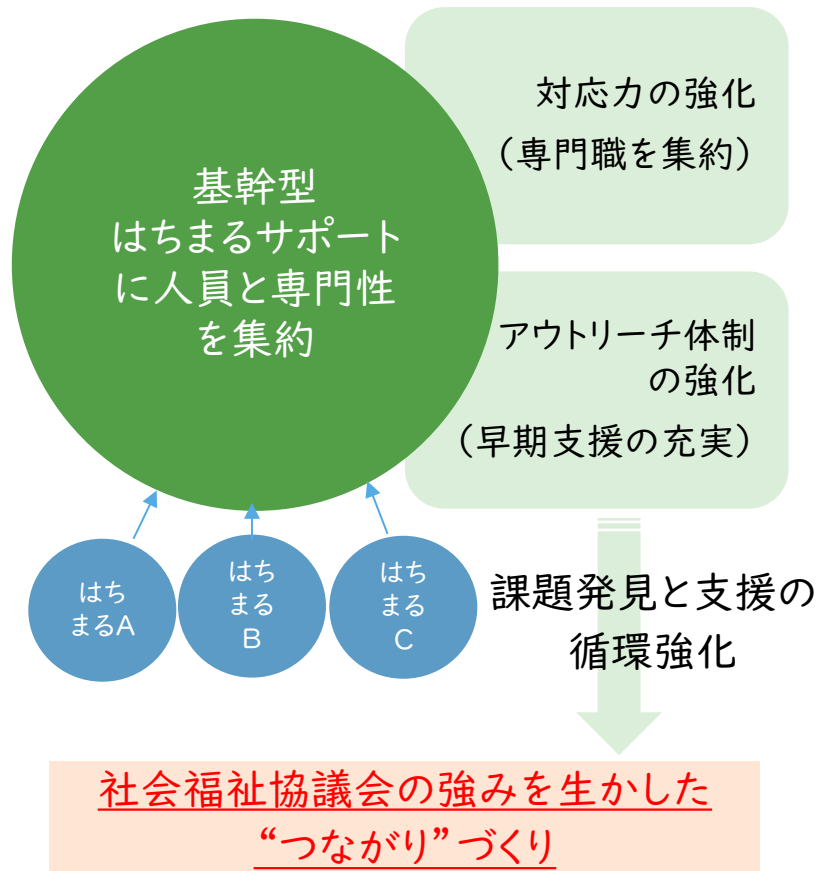
人口規模	見直し後			見直し前
	本体額	加算総額	合計額	
1万人未満	11,000	4,400	15,400	15,000
1万人以上～3万人未満	13,000	5,200	18,200	18,000
3万人以上～5万人未満	15,000	6,000	21,000	21,000
5万人以上～10万人未満	17,000	6,800	23,800	25,000
10万人以上～20万人未満	20,000	8,000	28,000	30,000
20万人以上～30万人未満	23,000	9,200	32,200	35,000
30万人以上～40万人未満	26,000	10,400	36,400	40,000
40万人以上～50万人未満	33,000	13,200	46,200	50,000
50万人以上	35,000	14,000	49,000	55,000

R7.3月にも見直しがあったため、実質的には
61,800千円 から 35,000千円 に減額

1 複合化・複雑化した課題への対応

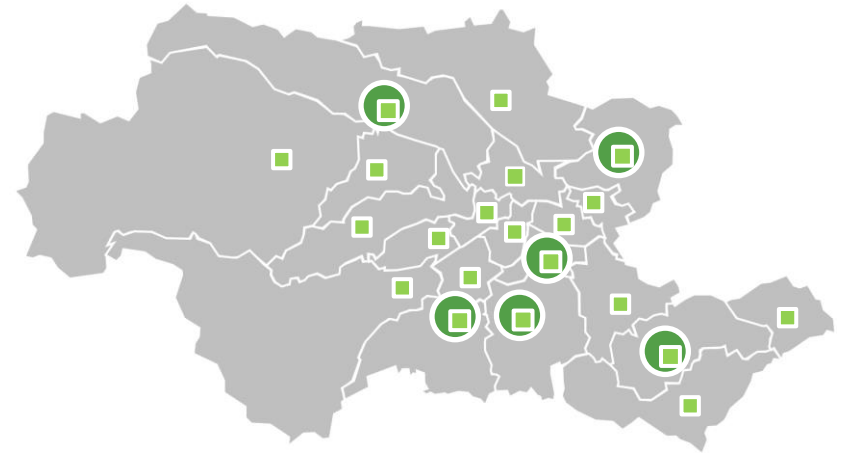
(1)相談窓口再編の必要性

はちまるサポートを13 → 6か所に集約
専門支援の対応力向上を図るとともに、
地域へのアウトリーチを中心とした活動を充実



既存の高齢者あんしん相談センター21か所の相談範囲を拡充することで、分野横断的な相談支援が提供できる身近な窓口を充実

分野横断的な相談：はちまるサポート 6か所に加え、
高齢者あんしん相談センター 21か所の包括化を検討
※高齢者のみの相談から属性を問わない相談に拡充



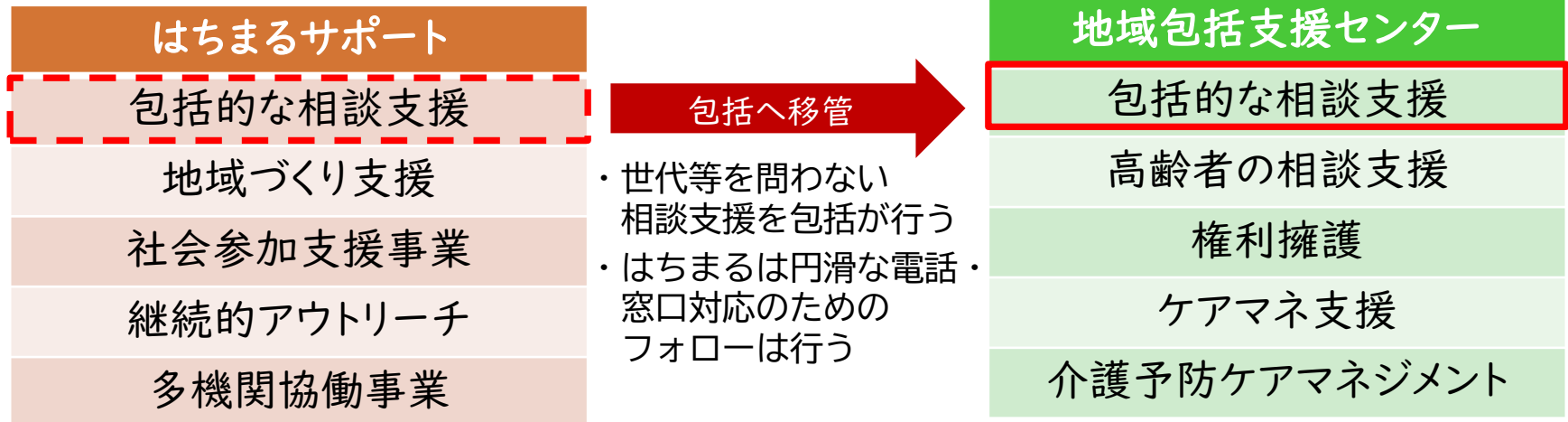
今後の設置イメージ(想定)	マーク
【拠点】はちまるサポート	
地域あんしん相談センター(仮称) ※名称変更も検討	

1 複合化・複雑化した課題への対応

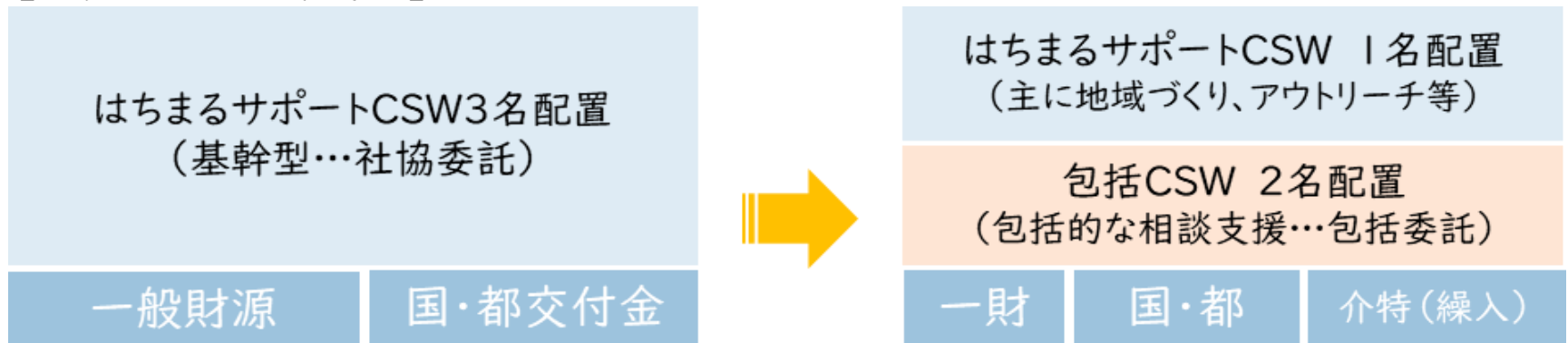
(2) 相談窓口再編の実現性

令和7年5月～ モデル実施（はちまる子安・包括子安の併設化に伴う運営体制の変更）

【業務内容】



【人員体制・財源構成】



- ・ はちまるCSW、包括子安CSWともに配置要件は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士のいずれかの資格を持つ者又はそれと同等の知識・技術、経験等を有する者。

1 複合化・複雑化した課題への対応

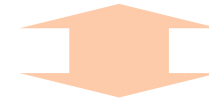
(2) 相談窓口再編の実現性

令和7年5月～ モデル実施（はちまる子安・包括子安の併設化に伴う運営体制の変更）

狙い

- ・分野横断的な相談への対応力強化
- ・はちまるが実施する社会参加支援、地域づくり等、他事業への注力

課題について整理した上で、
他5地域でのモデル実施も検討する



包括の負担軽減も並行して進めるべき課題
（第9期介護保険事業計画の重要テーマ）

課 題

次頁

（１）相談支援（包括）と地域づくり支援等（はちまる）の連動

相談を通して把握した地域課題を、地域づくり等にどう活かすか？
（共通アセスメントシート、地域資源マップの共通化など）

（２）相談支援情報（支援経過等）を共有できる仕組みの整備

多様な支援機関の連携により必要な支援を提供するために、
相談支援で受けとめた情報を共有できる仕組みや役割分担が必要

1 複合化・複雑化した課題への対応

(2) 相談窓口再編の実現性

高齢者あんしん相談センター（包括）の体制充実の負担軽減（案）

① ケアプランデータ連携システムの導入・活用

→ 居宅介護支援事業所等との情報連携の円滑化及び事務負担の軽減を図る。

② 相談記録作成の効率化（ICT活用）

→ 記録作成業務の省力化を進め、相談支援等に充てる時間の確保を図る。

③ 手続き書類の簡素化

→ 申請・報告や内部手続き等にかかる事務手続を見直し、書類作成及び確認業務の負担軽減を図る。

④ 高齢者人口にとどまらない人員配置の検討

→ 地域の実情、業務量及び相談内容の複雑化等を踏まえた適切な配置のあり方を検討する。

⑤ 介護予防ケアマネジメントの整理

→ ケアマネジメント手順の簡素化や、総合事業への円滑なつなぎ方の検討。

1 複合化・複雑化した課題への対応

(2)相談窓口再編の実現性

【参考】

	想定し得る方向性	事業費	メリット	デメリット
1	地域福祉計画に基づき、はちまるサポートを15か所設置	約4千万円 増 (はちまる2か所分)	・相談窓口の箇所数増による生活課題への対応強化 ・はちまるサポート認知度向上	・委託料の増加(費用負担の増) ・配置するCSWの確保が困難 ・公共施設内の設置が困難
2	はちまるサポートを全て廃止	約2億3千万円 減	・事業費の削減	・市民サービスの低下(特に40～64歳までの身近な相談窓口がなくなる。)
3	はちまるサポートを6拠点化 相談業務は高齢者あんしん相談センター6か所へ移行	約9千万円 減	・事業費の削減 ・窓口の一本化による相談の利便性向上	・高齢者あんしん相談センターが実際に受託可能か ・職員人材育成(高齢分野以外の支援スキル強化)

上記3の事業費について

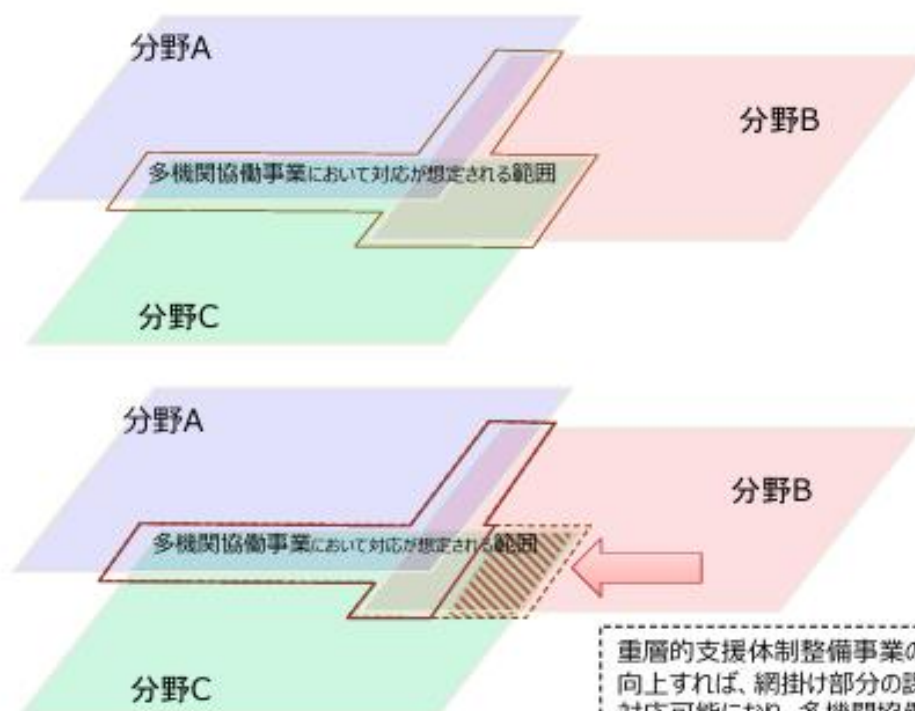
はちまるサポートを6拠点化した上で、6拠点（併設するはちまると包括）でP.9の人員体制を導入した場合の人件費の試算結果（目安）。

1 複合化・複雑化した課題への対応

(3) 今後の重層的支援体制整備事業

重層的支援体制整備事業の意義 ①

- 生活課題が複数分野にまたがっているケースについて、分野の重なり合っている部分（**重層的な部分**）における協働がこれまで以上に機能すれば、より支援の可能性が広がるという点に着眼し、そのための**支援体制を整備**しようとするのが本事業の狙い。



① 具体的な対象範囲を知るために

まず手元の相談体制・支援体制において、個別ケースのレベルで「惜しいケース」を把握、関係者間で共有することが大切

潜在的なニーズや狭間のニーズを抱える事例についても関係者間での共有することも重要



② 困難事例の押し付けにしないために

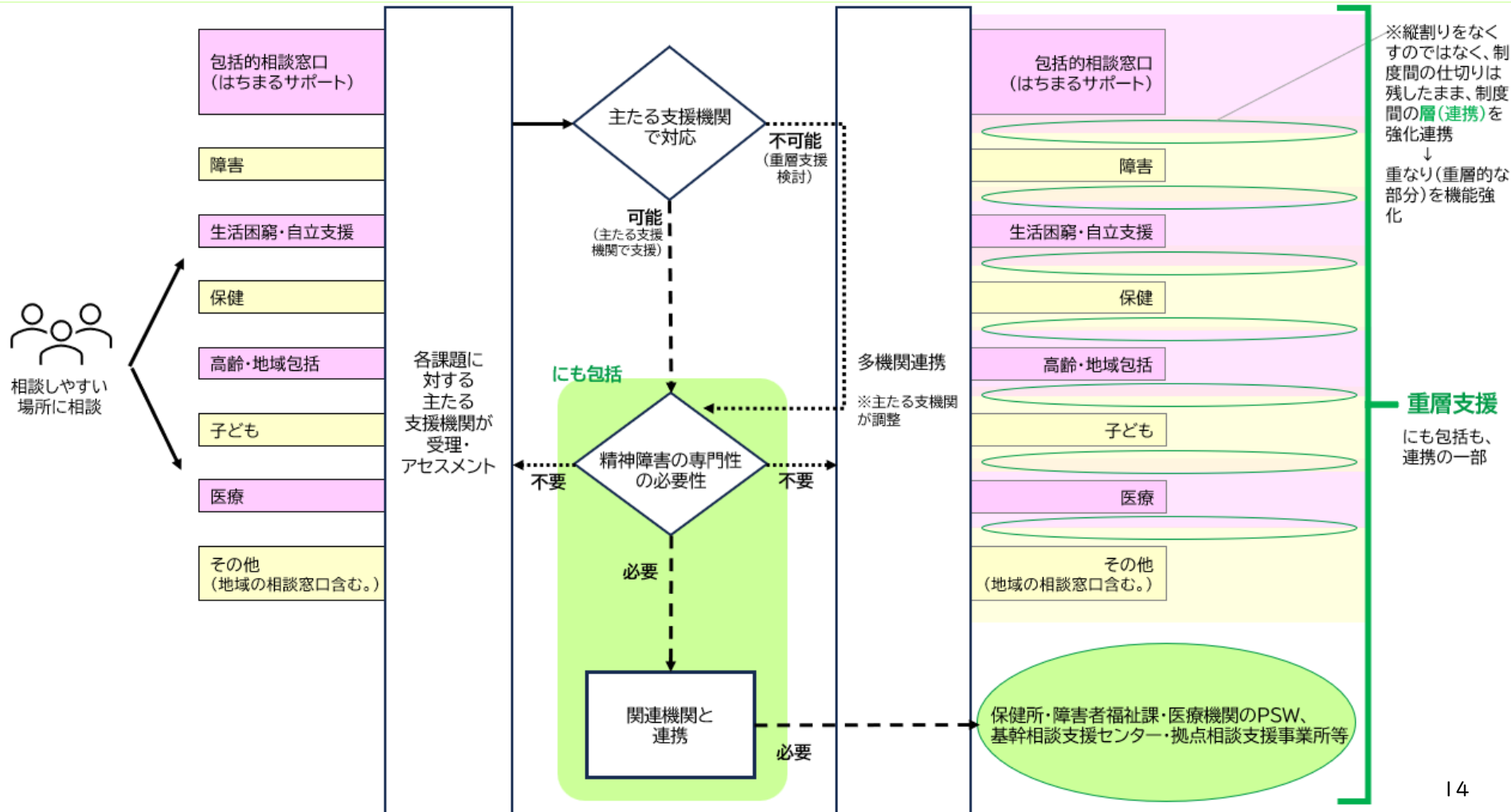
多機関協働を中心として、各分野の相談機関や専門職の対応力を高め、最終的には多機関協働事業者が担うべき守備範囲の縮小こそ、本事業の目標。
個々の分野の対応力強化をセットにした取組が求められる。

重層的支援体制整備事業の成果で分野Bの課題対応力が向上すれば、網掛け部分の課題については、分野Bの中で自ら対応可能になり、多機関協働事業の範囲は縮小。

1 複合化・複雑化した課題への対応

(3) 今後の重層的支援体制整備事業

【参考】 “にも包括” = 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム



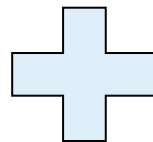
1 複合化・複雑化した課題への対応

(3) 今後の重層的支援体制整備事業

八王子市は、今後の重層的支援体制整備事業で何を目指していくか？

重なり合う「層」の連携をすることで何を生み出すか？

複雑化・複合化した生活課題を抱えた方への支援



効果的・効率的な支援につながる、支援者支援の要素

- ・ 地域資源の情報共有・整理
- ・ 顔が見える関係性
- ・ 多機関連携が得意な人材の育成

当事者支援の充実はもちろんのこと、どのような支援者支援の効果を生み出すか？
＝はちまる6拠点化後の連携の方向性のヒントとしたいところ